吟行って楽しい

俳句教室　森戸陽子

十一月二七日木曜日、上野の東京文化会館前十時集合。小春日和の温かい日、上野駅の公園口を出ると、銀杏の黄葉が目の前に。「これで一句作れるわね」、などと話しながら皆さんを待ちました。

先生から「鍵和田柚子先生の句に、『枯蓮の水か懺悔に色あらば』というすばらしい句があります。今日見た物は冬の季語でなくても、何でも詠んでいいですよ」とのお話がありましたので、少し安心しながら出発しました。公園内は、ちょうど今が見頃の紅葉のグラデーション。櫨（はぜ）紅葉の真っ赤、はかなげな十月桜、山茶花、桜紅葉。句材は沢山あるのですが、句にするのは難しいです。

清水観音堂から弁天島を眺め、池の端へ。不忍池弁天堂周辺と、それぞれ句帳を広げて観察したり、考えたりしています。ここで出来た句は次の句会に提出することになります。夏の頃、あんなに緑に覆われて美しい花を咲かせていた蓮の池も、今は見る影もありません。俳句では敗荷（やれはす）とか敗れ荷（やぶれはす）とかいうそうです。

屋台の看板が数か国語で書いてあるのも面白いと思いました。骨董市を見ながら食事処へ。今年から教室へ入られた方とも沢山お話をして、楽しい時を過ごしました。食事も美味しかったし、やっぱり吟行会は楽しいです。

当日の吟行句を中心に

枯蓮に涙するごと龍手水　笙
枯蓮と共に拝礼数多の碑　ゑいみ
落葉掃く老婆の背ナに母かさね　和夏
破れ蓮の捲土重来忍ぶ池　智
悠然と一糸まとはず冬欅　文
首垂れ淡々として蓮枯るる　洋輝
師の手製干柿噛むや日の匂ひ　とう子
不忍池の池の凍て鳥水尾引きて　和夫
新しき畳の匂ひ冬麗　花野
蓮の花役目を終えて頭垂れ　友子
夕暮れは妖怪となる敗れ荷　謡
蓮の実かしげし首の五つ六つ　かづ
道の端に吹き寄せらるる落ち葉かな　ふみ子
枯蓮田天敵の無く太る鯉　惠秀
黄葉して銀杏青空届くやう　よし
師走入り暦淋しく次を待つ　信
小春日やセンスの光る書展かな　ゆき
落ち葉踏み散歩楽しくなりにけり　ゆきえ
どんぐりで楽器を作り唱歌かな　弘子
不忍の市の賑はう四温かな　京